

<2021年3月期 決算説明会 主な質疑応答>

日時 : 2021年5月6日(木) 13:30~14:30

出席者 : 取締役社長 貸谷 伊知郎

CSO 富永 浩史

CFO 岩本 秀之

Q. 当社取り扱い国での自動車販売の状況。南アフリカとロシアが良かったと言及あったが他はどうか？

A. 中南米はドミニカ、ジャマイカが落ちた。ジャマイカは観光立国なので、ワクチンの状況次第でこれから戻ってくると予想している。

豪亜はカンボジアとタイが落ちており、この状況がしばらく続くとみている。

ロシアは今までたまっていた需要が一気に吐き出されたのか、あるいはこれからも続くのかを見極める必要がある。21年3月期の4Qほどはいかないものの、伸びていくとみている。

Q. アフリカの21年3月期通期実績は153億円。自動車セグメントが好調だった。

一方で、22年3月期の販売の計画は4Q実績から見ると落ちるようなので、何が落ちていくのかご説明いただきたい。アフリカの地域別の方向性はあるか？

A. アフリカはケニアなどの東アフリカが下がった。西アフリカはあまり下がっていない。特にコートジボワールはこれから伸びる。ケニアも底を打って、伸びるとみている。

21年3月期は経費が圧倒的に少なかった。22年3月期は経費を賢く使いながら、売総を増やす。

Q. 機エネが21年3月期減益なのはなぜか。

中期経営計画の再エネで1,400億円の投資が予定されている。どのタイミングでどれくらいの収益貢献をするのか教えて頂きたい。

ユーラスからの利益貢献は積み上がってくるフェーズなのか、それともあまり伸びないフェーズなのか？

A. 投資の1,400億円は既に着手済みの案件に対するもので、道北やリプレース案件などこれから3年間でローンチを迎える。入札案件は、取れば投資が3年後以降に出ていく。中計期間中は開発費が先行するため、ユーラスの利益貢献は下がる。

Q. ユーラスのグロス持分発電容量が21年3月期3,420MWから24年3月期には4,900MWになる。1,500MW伸ばすために、何処に投資していくのか。
これだけ発電量が増えるのであれば利益も増えると思うが、利益が出てこない点についても教えて欲しい。

A. これから3年間で稼働してくる案件として、オランダの陸上ならびに北海道の道北の案件がある。その他に水力発電、エジプトの風力第2期、メキシコ、台湾、太陽光等もある。入札計画中の案件もグロスに入れているものもあるので、1,500MWがすべて利益貢献という訳ではない。また、24年3月期でやっと稼働という案件が多く、足元の2年は現状稼働のもの以外利益貢献が出ないと見ている。

Q. アフリカの22年3月期の予想160億円について、保守的ではないか？

A. 21年3月期4Qの中に貸倒引当金の戻しが10億円程度含まれており、見た目が上がってしまっている。アフリカの事業を伸ばしていくにあたり、色々な経費が先行するが、売上総利益の伸びで取り戻す。

Q. 22年3月期が21年3月期と比較してマイナスとなっているセグメントのそれぞれの理由は？

A. 機エネに関しては再エネの開発費を大きく見込んでいること、一方で機械のビジネスや既存の再生可能エネルギービジネスを保守的にみた。化エレは21年3月期の実績の中に化学品やエレクトロニクスの一部のビジネスの中に特需があったため、22年3月期は同様に見ていないことや半導体が先行き不透明なので保守的に見ている。食料・生活に関してはアパレルが回復するとみているが、一方で食料関係の21年3月期の特需を考慮し、トータルで前年並みとみている。

Q. ネクストモビリティ戦略の中で新しい資源投資は考えているか？
投資200億円とあるが、資源関連の大型投資はあるか？

A. 基本的に自動車まわりに直接関係する資源投資に限って実施していく方針。
従って、電池周りのリチウム、モーターに関わるネオジウムなどに特化し、投資していく。それ以外は市場から調達していく。
新規資源関連はリチウム拡張のみ。それ以外の投資はCASEにかかる新興企業への投資や技術取り込みなどを考えている。

Q. 金属とグロージの21年3月期実績と22年3月期予想に関して、トヨタ生産台数に関連していない理由は？保守的に見ているのか？

A. 21年3月期の818万台から22年3月期の936万台は14%の伸びであり、それをベースにしている。コンテナ、半導体、樹脂の影響などにより上半期は落ち込み、3Q、4Qで回復すると予想。